

プロジェクト名	「生きがい」についての日印比較研究—現代社会へのインプリケーション	
代 表 者	グローバル化推進本部・本部長（法文学部・教授） 片岡佳美	
達成に資する SDGs 目標	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも、経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを	
プロジェクト の意義、成果 及び波及効果	人びとにとって「生きがい」とは何か。「生きがい」を感じながら生きる人とそうでない人との違いは何によって生じるのか。そして、どのような条件が整えば人びとは「生まれてきてよかった」と実感しつつ、自らの人生を享受することができるのか。これらの問いを探究することは、上述したいずれのSDGs 目標を追求することにもつながる。 また、急速な経済成長のもとで経済至上主義や経済格差が拡大するインド社会と、高齢化および経済停滞が深刻化している日本社会—とりわけ島根県—における「生きがい」を比較分析することで、今日のグローバル資本主義や AI 時代を、「人間の生」という根源的な視点から捉え直すことが可能となる。こうした分析から得られる知見は、日印両社会にとどまらず、世界各地が直面する共通の課題に対しても重要な示唆を与えるものであり、国際社会全体にとって大きな意義を有する。 本プロジェクトは、インドの研究者とも連携して実施する。本学が採択されている「大学の世界展開力強化事業」は現在のところ理工系分野を中心に展開されているが、本プロジェクトを通じて、その成果を文系分野へと広げ、日印間の学術交流を多角的に深化させることをねらいとする。	
実 施 体 制	担当部局名・職名・氏名	役割
	グローバル化推進本部・本部長・片岡佳美 国際センター・特定職務職員・Madhuri Kasibhatla 日印グローバル教育・研究センター・コーディネーター・浅井彩 人間科学部・講師・豊島彩	研究の総括、調査の企画・実施・結果の分析（社会学的アプローチ） インドの研究機関との連絡、調査の企画・実施・結果の分析（文化論的アプローチ） インドの研究機関との連絡、調査の企画・実施・結果の分析（文化人類学的アプローチ） 調査の企画・実施・結果の分析（心理学的アプローチ）